

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19530538
 研究課題名（和文） 大阪「博愛社」の総合的研究—大都市における児童保護の歴史的検証—
 研究課題名（英文） Comprehensive research on Osaka HAKUAI SHA—Historical verification of child protection in major cities
 研究代表者
 室田 保夫（MUROTA YASUO）
 関西学院大学・人間福祉学部・教授
 研究者番号：90131614

研究成果の概要（和文）：

3年間の共同研究の成果を終えて、第一に大きな成果は社会福祉史のみならず近代日本史、大阪の近代史にもきわめて貴重な博愛社の史料整理とその保存が出来たことである。具体的には史料目録（仮）の完成とおよそ 90 箱にも及ぶ資料の保存である。研究の方では創立者小橋勝之助の日記の翻刻といった研究が進捗した。そして機関誌の複製の作成、また史料が整理されたことによって研究への道がたった。さらにこの作業をとおして研究仲間同志の博愛社研究についての共有するところが大きくなったことも付け加えておこう。

研究成果の概要（英文）：

After completing three years of collaborative research, our major achievement was the organization and preservation of Hakuai sha's historical documents, which has great value to the history of social work, as well as modern history of Japan and Osaka. In particular, we were able to preserve 90 boxes of documents and create a bibliography. As for research, we made progress in transcribing the diary of Hakuai sha's founder, Katsunosuke Kobashi. Furthermore, the copying of the foundation's magazines and documents paved a way for further research. Moreover, such progress also enhanced the collaborative efforts of our research team.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：博愛社、児童養護施設、社会福祉史、小橋勝之助、林歌子、小橋実之助、施設史、キリスト教史

1. 研究開始当初の背景

1890 (明治 23) 年に小橋勝之助によって創設された博愛社は、明治から大正、昭和、そして平成と、現在まで約 120 年、連綿と続いており、現在、児童養護施設のみならず、特別養護老人ホームや、ケアハウス、幼稚園、そして児童家庭センターといった児童センターも運営し、地域の福祉活動の拠点ともなっている。

日本においてこれほど伝統があり膨大な資料を収蔵している施設も稀少であり、この貴重な資料を後生に残していくことはきわめて重要な仕事であり、とりわけ研究者の使命でもある。そして、博愛社の歴史を辿ることは、日本の社会福祉の歴史そのものであり、それを多角的にみていくことは、現在多くの課題をかかえている児童福祉に関わる諸問題を解明していく意味においてもきわめて有意義である。また博愛社が日本の代表的な都市大阪という地に存在してきたこと、これは都市に於ける施設と地域コミュニティとの関係を知る上において、意味のあることといえる。

ここで、従来の先行研究を振り返っておくと以下のようになる。博愛社とその関係者についての研究はこれまで決して多いと言えない。博愛社について本格的な研究を始めたのは、西村みはるであり、その成果は『社会福祉実践史研究』(ドメス出版、1994) に収載されている諸論文にある。

博愛社の歴史については、創立 100 年を記念として上梓された『春夏秋冬恩寵の風薫る博愛社創立百年記念誌』(博愛社、1990) が 327 頁にわたる大部なものがある。もちろん明治期から博愛社には施設史があり、博愛社が出した主な著書には小橋実之助『博愛社』(1902)、小橋カツエ『博愛社』(1940)、『博愛社要覧 創立五十年記念』(1940)、及川英雄『主よ備え給う』(1965) 等がある。ここには小橋勝之助や実之助、林歌子、小橋カツエら博愛社に関わる人物の事績が触れられている。

個別にみていくと、小橋勝之助については前掲の西村の著書があり、実之助については研究が皆無に近い状況であり、水上妙子「小橋勝之助」『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』(ミネルヴァ書房、2006) がある。林歌子についてはこれまで女性史関係での研究がある。林歌子個人の伝記的著作の代表的なものとして、久布白落実『貴方は誰れ』(牧口五明、1932) がある。他に伝記的著作として、村島焯之『美しき献身』(清文堂書

店、1948)、高見沢潤子『涙とともに蒔くものは』(主婦の友社、1981)、佐々木恭子『林歌子』(大空社、1999) 等がある。しかしこれら伝記的な著書は林の全体像を知るうえで、手っ取り早いものであるが、実証性に欠ける点がある。

また、石月静恵は『戦間期の女性運動』(ドメス出版、1996) の著書中「日本基督教婦人矯風会」の項で大阪支部長としての林を、廃娼運動や大阪婦人ホームを中心に扱っている。石月は他にも「廃娼運動と林歌子の生涯」右田紀久恵・井上和子編『福祉に生きたなにわの女性たち』(編集工房ノエ、1988) や「林歌子」『春夏秋冬恩寵の風薫る 博愛社創立百年記念誌』(博愛社、1990) がある。他に大谷リツ子「林歌子」『社会事業に生きた女性たち』(1973、ドメス出版)、等があるが、西村の作業以外、博愛社の原資料を利用してまでの研究ではない。

本研究の代表者である室田保夫の論文として「林歌子の渡米 (1906~1907) をめぐって」『関西学院大学社会学部紀要』96 号 (2003)、「『博愛雑誌』について」『関西学院大学人権研究』8 号 (2004)、「林歌子の『博愛月報』掲載論文をめぐって」『関西学院大学社会学部研究紀要』101 号 (2006) 等がある。これらは博愛社資料を利用して成された研究であり、今後とも膨大な博愛社の資料を利用しての究明が必要である。

以上を踏まえ、本研究は博愛社という養護施設や児童の問題への歴史研究という課題とともに、歴史的資料を如何に保存し、後生まで貴重な財産として残していくかという、きわめて喫緊な課題を解決していく一事例と考えられる。この資料保存という問題は、歴史関係の学会はもちろん、社会事業史学会でも大きな課題となっており、かかる課題へのきわめて重要なケースに位置づけられるものである。

2. 研究の目的

本研究は大阪にある 120 年の歴史を持つ児童養護施設博愛社について歴史的かつ多角的に研究を行うものである。この施設には創立以来、創立者の日誌、創立以来の業務に関する記録、入所児童のケース記録、博愛社創立初期の図書、貴重な明治期の内外の著や雑誌新聞、機関誌、数千通の書翰、写真類等々およそ一万点に及ぶ重要な資料が大切に保存されてきた。しかし、その資料はこれまでほとんど日の目を見るに至らなかった。

本研究はこの貴重な資料を整理し、その目

録を作成し、そして永く保存する作業をし、さらにそれを利用して大阪の地で長く続いた博愛社の歴史を研究していくものである。まさに博愛社の歴史は、日本の社会福祉の歴史ともいえる重要な施設であることは疑いなく、そしてその研究は今日の混迷する児童の諸問題を解くヒントを得るためにも貴重な研究である。また博愛社にかかわる関係事業や人物を研究することは社会福祉の歴史のみならず、近代史への貢献となるものである。

さらに具体的な研究目的としては博愛社についての社会福祉史的研究に終始するだけではなく、聖公会を中心にしたキリスト教史の課題、林歌子を中心にした日本キリスト教婦人矯風会の歴史は女性史や女性福祉、ジェンダーの課題に接近し、こども学や教育学、そして施設が経営してきたホームは母子福祉といった領域に相当する。社会福祉学を中心としながらも、学際的な研究プロジェクトという特色もある。以上のように当研究は、120年の歴史をもつ博愛社についての基礎的な研究の基盤を形成させ、個々の課題に向けて実証的に究明する。

3. 研究の方法

研究や資料整理・保存作業については以下のような方法で行っていった。

(1) 資料整理・保存作業

資料保存と資料目録作成のために必要な書類、日誌、機関誌、書籍等について、コンピューターにデータ入力した。

(2) 貴重な一次資料の撮影作業

小橋勝之助の日誌等に代表される明治10年代から昭和時代にかけての貴重な一次資料等については写真撮影を行い、デジタルデータ化した。

(3) 機関誌等の複製作業

博愛社の機関誌『博愛雑誌』や『博愛月報』、そして小橋勝之助や初期の資料の複製を作成し、資料保護や研究の為に利用しやすい状態にした。

(4) 資料の解読作業

創立者小橋勝之助の創立前後の貴重な日記については、その解読と翻刻作業を定期的におこなった。

(5) 現場の職員との連携

研究者のみ携っていくスタイルだけでなく、当施設職員にも時間の許す限り参加をしていただいた。

以上の作業や打ち合わせについては、博愛社の会議室や関西学院大学の室田研究室において行った。また整理、補算作業については主に博愛社の会議室を利用させてもらった。

3. 研究成果

この3年間で達成されたことを大きく整理すると以下の4点のようになる。

(1) 博愛社の所蔵する資料整理が中心であったが、目標とした「博愛社所蔵史料仮目録」の成就がなった。

(2) 仮目録に基づいて、重要資料の保存作業を行い、書類、日誌（個人、業務用）、パンフレット等を中心に、大きな整理箱約90箱に収めることができた。

(3) 博愛社の初期研究として、創立者小橋勝之助の日記の解読作業を継続的にを行い、関西学院大学社会学部や人間福祉学部の研究紀要に発表した。

(4) 博愛社機関誌『博愛雑誌』『博愛月報』等の機関誌を製本し、膨大な業務日誌を含む重要書類を整理し、重要資料の撮影を行い、それを記録媒体（DVD）に保存することができた。

また博愛社側も資料の保存室を整備していただき、3月に約90の資料整理の箱をそこに移動し、保存作業はひとまず完了した。ちなみに各箱には史料の劣化を防ぐために、文書保管用の封筒に入れ、さらに保管用の箱に防虫剤を入れ保存している。

本年度の作業の締めくくりとも称せる仮目録『博愛社所蔵史料仮目録』（167頁）が博愛社大阪移転の記念日に相当する3月12日に刊行する事ができ、120年の記念会において披露できた。

4. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4件）

①室田保夫, 鎌谷かおる, 片岡優子「小橋勝之助日誌」(三):天路歷程』『Human Welfare』創刊号（関西学院大学人間福祉学部）, pp. 131-144, 2009（査読無）

②室田保夫, 鎌谷かおる, 片岡優子「小橋勝之助日誌」(二):「天路歷程」『関西学院大学社会学部紀要』（査読無）105, pp. 239-252, 2008

③室田保夫「岡山孤児院の機関誌『岡山孤児院新報』について」『キリスト教社会問題研究』(57) 1-37, 2008（査読無）

④室田保夫, 鎌谷かおる, 片岡優子「小橋勝之助日誌」(一)1887年12月1日～1888年6月17日』『関西学院大学社会学部紀要』（査読無）(103), pp. 155-172, 2007

〔図書〕(計 3件)

①室田保夫, 片岡優子, 水上妙子, 蜂谷俊隆
『博愛社所蔵資料仮目録』(博愛社史研究会, 2010)

②室田保夫, 二井仁美, 倉持史朗, 蜂谷俊隆
『子どもの人権問題資料集成』第一巻～第三巻(不二出版)2009, 室田担当(第一巻～第三巻編集、第一巻解説)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

室田 保夫 (MUROTA YASUO)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号: 9 0 1 3 1 6 1 4

(2) 研究分担者

今井 小の実 (IMAI KONOMI)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号: 2 0 3 3 1 7 7 0

倉持 史朗 (KURAMOCHI FUMITOKI)
天理大学・人間学部・講師
研究者番号: 7 0 4 1 1 0 5 6

原 佳央理 (HARA KAORI)
相愛大学・人間発達学部・講師
研究者番号: 5 0 4 4 1 0 9 3

(3) 連携研究者

()
研究者番号:

(4) 研究協力者

佐野信三 (SANO SHINZO)
社会福祉法人博愛社・理事長

竹林徑一 (TAKEBATYASHI KEIICHI)
桃山学院高等学校

大野定利 (OONO SADATOSHI)
社会福祉法人博愛社

水上妙子 (MIZUKAMI TAEKO)
仏教大学大学院

鎌谷かおる (KAMATANI KAORU)
関西学院大学非常勤講師

片岡優子 (KATAOKA YUKO)
関西学院大学非常勤講師

新井利佳 (ARAI RIKA)
関西学院大学大学院

蜂谷俊隆 (HACHIYA TOSHITAKA)
関西学院大学大学院